

僕は、小学生くらいまで堂々とそびえる山々や、この美しい自然が身近にありすぎて、何の感情もありませんでした。しかし、テレビを見たり、祖父や祖母の話の聞いたりして、安曇野や日本の自然のことが少しずつ分かり始め、意識して見るようになりました。こんなに山は美しかったのか、こんなに美しいものになぜ今まで気が付かなかったのだろうか、そんな中で生

「僕が思う安曇野市への願い」

穂高東中学校 川村純平君

活で生きるなら、とて、とも誇らしく感じます。昨年の10月1日、5つの地域が合併して安曇野市が誕生しました。合併したことで、安曇野の自然を協力し合って皆さんの手で守ることができるようになったと僕は思います。また、僕たちにはどのようなことができるのか考えてみました。まずは、登下校中によく目にするごみをなくすということです。ごみが落ちていては、せつかくの自然も台無しです。したがって、基本的なことですが、ごみを捨てない、また、ごみが落ちていたら拾うということ。たった一つのごみなんて拾わなくても変わらないと

次世代に引き継いでいきたく思います。

思いですが、ごみを一つ拾うということは、地球から一つごみがなくなることです。世界中の人々が行えば、地球上から数え切れないごみがなくなるのです。今言った活動を僕たちも取り入れ、安曇野の自然を市民の一員として守っていきたくです。雄大な山、清らかな水、豊かな緑のある安曇野市が、日本一、いや、地球一ごみのない、美しい市になるよう、僕たちがそういうことを考え、

今の安曇野市は、自然豊かで空気が澄んでいて、とてもいい景色の所です。人も穏やかで温かくほのぼのした田舎をイメージします。僕にとつて、この安曇野はとても居心地の良い所です。しかし、自然がたくさんある山も、ごみの不法投棄やポイ捨てで自然が荒らされています。実際にこういうところを見ると、不快になります。これでは、観光目的でわざわざ遠くから来る人も、幻滅してしまいます。だから、せめて安曇野市の住民の僕たちだけは、自分たちの自然を守るように意識して生

「僕の願い」

三郷小学校 高橋和希君

活していきたくと思います。そして、安曇野市が誰からも愛される市になると良いと思います。また、これから安曇野市として大きく発展していても、事件だけはあってはならないと思います。僕たちが住民がみんな協力し合い、事件、事故のない平和な市にしていきたいと思えます。さて、話は変わりますが、僕は三郷以外の4地域のことあまりよく知りません。そこで、安曇野市を知るとい意味で、安曇野市の名所めぐりをした

いと思います。ほかの県に行ったときに安曇野市のことを聞かれたら、おいしい名物料理や、観光地などを堂々と教えてあげたいからです。そのためには自分の足で確かめたいと思いますが、安曇野市は広くて大変です。僕はまだ子どもなので、車の運転はできません。なので、安全に通行できる自転車道をもっと造ってほしいです。安曇野市になってより良い生活をするために、住民みんなの協力が必要だと思います。近代化が進んでも、安曇野市だけは、田舎の良さを残すような、そんな市にしていきたい良いと思います。

私たちが住んでいる安曇野市は自然が多くとても良い所です。そんな安曇野市に住んでいる人、全員がこの先ずっと笑顔でいられるようにどうしたら良いか私は考えてみました。このごろは小中学生を狙った犯罪が多く、同年代の子どもたちがたくさん犠牲になりました。そんなむごい事件を起こさないためには、安曇野市に住んでいる人、一人ひとりがみんなを守りたいという気持ちを持つことが大事だと思えます。一人ひとりがその

「みんなが笑顔の安曇野市に」

堀金小学校 大林さくらさん

心を持っていて、

り倒したり花を踏んづけた

だから安曇野市に住んでいる全員が家族や兄弟だと思えばよいのです。このごろの日本は都市開発によって木が切り倒され、その代わりに高層ビルが立ち並ぶようになりまし。しかし、安曇野市にはまだまだたくさん自然があります。春にはたくさん花が咲き、夏には暑い日光を木がさげぎってくれます。秋には赤や黄色の葉がたくさん落ちてきます。冬には寒い北風を遮ってくれました。そんな自然を大切にすために、木を切

りしないようにすればいいと思います。このたくさん自然をこの先ずっと守っていきたくです。あと、みんなに優しい市になってほしいです。誰かが困っていたら、助けてあげたりとか、手伝ってあげたりとか、この市に住んでいる全員が幸せな気持ちになれたら私は嬉しいです。何か一つでも努力するたびに一つ一つ笑顔が増えていき、最後にみんなが笑顔になったら、私は幸せです。この先ずっと笑顔が絶えないように小さな努力をこつこつしていきたくです。



「大好きな白鳥たちのために」

安曇野市に、毎年たくさん

でもらいたいと思つていま

安曇野市に、毎年たくさん白鳥がやってきます。私もこの冬、クラスで御宝田の遊水池に真っ白な白鳥を見に行きました。今年は、例年以上にたくさん白鳥がやって来てくれました。安曇野のシンボルで、私はこの白鳥が大好きです。

私の夢はパン屋さんになることです。生まれ育ったこの安曇野の、おいしい水と空気でパンを焼いて、食べてもらった人に喜んでほしいです。

しかし、この白鳥たちが鉛中毒や、ごみ問題で苦しんでいることを、新聞記事や読み聞かせのお話で知りました。私たちの学校では、整美委員会が週1回のごみ拾い登校を呼びかけ活動をしています。また、私もボランティア委員会で犀川清掃に出掛けました。実際に

私の大好きな白鳥たちのためにも、この安曇野の素晴らしい自然をいつまでも守っていきたくです。そして、もうすぐ北の大地へ旅立つ白鳥たちの、「安曇野は空も水も景色もきれいな日本一の場所だよなんて声が聞こえ、もつともつと白鳥たちがやって来てくれることを夢見ています。